

紙版 ハコブネ×ブックス vol.22

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。



さよならのドライブ

A greyhound of a girl.

作者 ロディ・ Doyle
 翻訳者 こだまともこ
 出版社 フレーベル館
 発行 2014年11月
 ISBN 978-4577041000

review

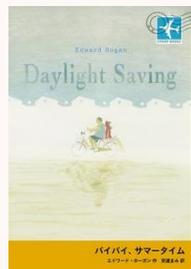


特集

視えるんです。

物語の中で**幽霊が視える**ことには、それなりの理由があります。霊能力があったり、霊感が強かったり、特別な資質があることもさることながら、もっと**運命的な必然**で視えてしまう、というのが、ホラーではない物語の常套です。どうして他の人には視えない幽霊が**自分**にだけ視えるのか。『ハムレット』の昔から、幽霊の存在はメッセージを与えて、**生きている人間を動か**し続けてきました。時に人間は、運命の啓示を求めて幽霊を視たいとさえ思うこともあるのです。児童文学作品で幽霊が視えてしまうのは、どこか**寂しさ**を抱えた子どもたちが多いものです。それは思春期の抜群の不安定感が見せる幻なのか。それとも運命を与えてくれた**好機**なのか。この世界に**心残り**がある幽霊や亡霊、ゴーストたちが抱えている問題に**一緒に立ち向う使命**を与えられた**視える子ども**たちの活躍を、是非視てみてください。

親しかった友だちが引越して、寂しい思いに沈んでいたメアリーに、入院中のおばあちゃんのことと声をかけてきたのは、昔風の服装と話し方をする若い女性でした。アナステイジアという**古風な名前**で、略称はタンジー。メアリーのママは、それが、おばあちゃんがまだ小さな頃に病気で亡くなった、ひいおばあちゃんの名前だと気づきます。あつけない**幽霊**だと自己紹介するタンジーは、娘に母親らしいことが何もできなかった心残りでの世にとどまっていたのだと言います。メアリーとママは、**死期が近い**おばあちゃんを病院から連れ出して、一緒に**一晚のドライブ**に出かけます。親子四代の女性が同乗した車が向かうのは、おばあちゃんが育った農場でした。**さよならのドライブ**。終わりのゆく人生への万感がこめられた静謐な時間がここにあります。



バイバイ、サマータイム

Daylight Saving.

作者 エドワード・ホーガン
 翻訳者 安達まみ
 出版社 岩波書店
 発行 2013年9月
 ISBN 978-4001164060

review



両親が離婚して、母親は出ていき、傷心の父親とともに残り残されたダニエル。そんな状況で**スポーツリフト施設**に週一回も滞在することが気分転換になるのか。父親は呑みだくれ、太った体型を気に病むダニエルは水着になることさえもはばかれます。ここでダニエルは、レキシという少し歳上でユーモアがある素敵な女の子と出会います。両親のことで頭を悩ませるダニエルの話を聞き、励ましてくれる彼女。ただ、その**特異な行動**や、腕にしている**逆に進む時計**にダニエルも疑念を抱きはじめてます。そもそもレキシは、**ダニエル以外の人間には視えない**のです。やがて、ダニエルはネットでのレキシの名前を調べ、二年前の恐ろしい事件で彼女が死んだことをつきとめます。**夏時間(サマータイム)**に切り替わる時間の狭間に閉じ込められ**ループ**するレキシを救うため、ダニエルは勇気を奮います。



ゴースト・ボーイズ

GOAST BOYS.

作者 ジュエル・パーカー・ローズ
 翻訳者 武富博子
 出版社 評論社
 発行 2021年4月
 ISBN 978-4566024724

review



友だちから預かったオモチャの拳銃で遊んでいたところを警察官に発砲され、黒人少年ジェロームは**命を落とします**。なぜ、警告もいままに撃たれたのか。なぜ、救命措置も行われなかったのか。十二歳の少年の**理不尽な死**は社会に大きな衝撃を与え、ジェロームを撃った白人警察官の予備審問も注目を集めます。この成り行きをすぐ近くで見守っていたのは、**ゴースト**となった当のジェロームです。その声は誰にも届かず、気づかれません。ただ一人、彼を撃つた警察官の娘のセアラにだけ、**その姿が視える**のはどうしてなのか。不当に差別され亡くなった黒人少年たちのことを伝える使命を託されたセアラとジェロームは、行動を起こしていきます。**命は終わっても終わらない**。その死を悼み、語り継ぎ、次の世界に生かしていく、祈りと願いが込められた物語です。



ぼくにだけ見えるジェシカ

JESSICA'S GHOST.

作者 アンドリュウ・ノリス
 翻訳者 橋本恵
 出版社 徳間書店
 発行 2019年2月
 ISBN 978-4198647933

review



フランシスがジェシカと出会ったのは学校の外れにあるベンチでした。死後一年も**幽霊**として**さまよっていた**ジェシカは、はじめて自分の存在に気づいてもらえたことを喜び、フランシスと親しくなります。フアッションに興味があった、自作のデザインも考案しているフランシスは、その趣味をからかわれた学校での居場所をなくしていました。やがてフランシスの他に、ジェシカを視ることができ、それぞれ**生きづらさ**を抱えた子どもたちが集まり、仲間になります。生きていた頃の記憶はあるものの、なぜ自分が幽霊になつてこの世界にとどまっているのかわからないジェシカの死の理由を探ろう試みたことが、**真実の重い扉**を開けてしまいます。痛みを孕んだ過去と向き合い、これから生きていくために、子どもたちはその先にある未来を照らしていきます。

特集
視えるんです。



ロイヤルシアターの幽霊たち
(ジェラルディン・マコックラン)
小学館 2020年

イギリスの海辺の町、シーショーにある**廃れた劇場**、ロイヤルシアター。ここには数多くの幽霊たちが住み着いています。劇場の設備は老朽化し、やがてここが崩壊することに幽霊たちは気づきました。が、**誰にも視えない**彼らはこの危機を伝えることができません。どうしたら人間に警告できるのか。そんな**視えるドラマ**もあります。

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.22

2021年7月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系会社員。趣味で児童文学紹介サイト **ハコブネ×ブックス** (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。



Twitter 連携しています。
@tomostretch